



[丸山地域] 1

1 SDG s チャレンジボランティア実施フィールドの里山風景 (南房総市大井)

関係人口を
育てる
【市民活動支援】

2020

地域の新たな担い手育成プロジェクト

～その1. SDGs チャレンジボランティア～
～その2. プロボノ・スチューデント～

実施者

- ＜教員＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター青木 秀幸 (千葉工業大学非常勤講師、合同会社いいもんだ代表)
※実施サポート 千葉工業大学新習志野キャンパス学生課
- ＜参加者＞千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 3年生 1人
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 OG 1人
- ＜協働パートナー＞
【行政】千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 3年生 1人
【企業等】みねおかいきいき館
【市民団体等】大井区、大井区里山保全協議会、スルーフラワー、(一社)南房総市観光協会ほか

背景と目的

南房総市では近年の著しい人口の減少、少子高齢化等の進行によって地域の活力の低下、地域で社会活動の担い手不足が深刻化している。一方国内の地方圏によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており「関係人口」*と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となるのが期待されている。そのような環境を活かして大学でも実践教育の場として積極的に位置づけ教育効果をねらった取組みが増えている。このように地方圏で拡大する新たな地域側のニーズと都市部大学のシーズをふまえて、本PJでは、南房総市の地域の担い手となる人材不足等の問題解決にむけて、

- 1) 都市部を中心とした大学生のボランティアやプロボノなど“新しい人の流れ”をつくり交流以上、定住未満の“関係人口として育てる”ことで地域の新たな担い手を確保、育成すること、
- 2) 農山村漁村の中に学生にとって実社会の求める人間力が育まれ学習の動機づけにつながる場をデザインすること、
- 3) 地域側の人材ニーズと学生ボランティアシーズの効果的なマッチングやボランティアマネージメント、支援環境づくりにむけた新たな手法開発を試みること、の3点を主な目的とした。

(*関係人口とは=観光などの交流以上、定住未満で、地域や地域の人々と多様に関わる人々)

活動内容

(1) プログラムの特徴と工夫

特徴1. 科学者やエンジニアの卵である理系学生にも持続可能な開発目標 (SDGs) への意識を高めてもらうための工夫
世界が2030年までに達成をめざす国連の定めた「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」(略称SDGs)を、参加学生が南房総市でのボランティア活動を通じて、課題認識を持ち、目の前の地域の問題から世界の問題まで、自分ごととして問題解決のための活動に取り組めるよう企図した。

特徴2. 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた実施環境づくり

ア)SDGs チャレンジボランティア (合宿・週末)
3/4 大学から学生にむけて出された「緊急事態宣言の再延長を受けた対応」を踏まえた現地受け入れ体制づくり(学生側への配慮)。さらに現地側への配慮や地域活動への心構えを促すべく、学生から地域側受け入れ主体へ、自身が良好な健康状態であり、受け入れ側の感染防止対策に従い、そのルールを順守することなどを記した「参加誓約書」を現地受け入れ団体側へ提出。

イ) プロボノ・スチューデント
ボランティアOG学生、教員、現地担当者との打ち合わせは、SNSやオンラインで実施し、OG学生の現地作業による自宅～南房総市の往來をなくした。代わりに現地作業は教員と現地担当者で実施。ボランティアOB、OGの「また機会があれば南房総市の地域の役に立ちたい」ニーズを汲み取った形で試行的に実施。



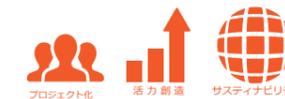
ア)SDGs チャレンジボランティア (合宿) ※選択必修科目対応
学生の長期休暇(夏期・春季)を利用したボランティア活動。合計30H以上、1泊2日の活動を、数回、地域に滞在しながら5人程度までのチーム形式で行うプログラム。
①「SDGs チャレンジ!住み続けられるまちづくりボランティア」⇒中止
〃 (週末) ※選択必修科目対応
土日・祝日を利用したボランティア活動。合計30H以上、1泊2日もしくは日帰りを基本とし、実施時期を変え数回、現地に滞在しながら少人数で個別に行うボランティア。「夏休み・春休みだけでなく週末・祝日等を利用してボランティアに行きたいといった」学生ニーズに対応したプログラム。
②「SDGs チャレンジ!里山整備&環境教育支援ボランティア」⇒中止
③「SDGs チャレンジ!竹炭づくりボランティア」⇒内容を④へ変更。
④「SDGs チャレンジ!環境教育支援&里山調査ボランティア」⇒実施。
イ) プロボノ・スチューデント
元来社会人の専門家が取り組む社会貢献活動をプロボノ※を、“学生の専門家”が“学業等を通じて培った知識・スキル”を活かして社会貢献するボランティアとして実施。地域からの専門的なニーズに即応する形で、サークル等による社会貢献活動の機会提供と実績づくり、OBOGとの人脈づくり等の支援を柱としたプログラム。
①みねおかいきいき館のキャラクターを使った顔抜き看板制作 (南房総市里山体験拠点みねおかいきいき館依頼)



- 2, 3 竹林 MAPづくりにむけた調査 (学び舎じんべゑ、地域内各所にて)
- 4, 5 地元の食事、竹あかり製作体験 (里山体験拠点いきいき館ほか)
- 6 各種ボランティア企画と募集ちらし

域学協働の工夫!

- ★地域と大学双方の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた協働事業の推進
- ★学生と地域との関係性の深まり、学びの深まりに応じた実践の場のコーディネート
- ★南房総市から世界へ。SDG sにつながる身近なアクション支援。



(2) 実施プログラム

- ア)SDGs チャレンジボランティア (合宿・週末)**
*テーマ「SDGs チャレンジ!環境教育支援&里山調査ボランティア」
3/6「篠竹PJの篠竹洗浄&大井区長、地元住民と交流」
・オリエンテーション (SDG s、南房総市、地方創生、社会人基礎力育成、実施内容等確認)
・大井地区の篠竹を使った篠笛のブランディングプロジェクトに纏わる共同作業
・大井区の現状と課題 (大井区長より)
・「3/13 小学生向けオンライン草木染ワークショップ」にむけたインターネットシステム、実施手順、当日役割分担などの検討。
3/11「竹林マップづくりにむけた現地調査」
・取り組みの背景と主旨、実施内容の共有
・地形図を使った笹地、竹林など種別の確認
・大井区内の竹林の荒廃状況を知る現地調査 (概要)
3/13「小学生向けオンライン草木染ワークショップの実施サポート」

- ・事前 MT、設営&撤収、WS 後ふりかえり
 - ・オンライン草木染ワークショップの運営サポート
 - ・ふりかえり (印象、成長につながった点、今後にむけて)
- イ) プロボノ・スチューデント**
*テーマ「みねおかいきいき館のキャラクターを使った顔抜き看板制作」 (南房総市里山体験拠点いきいき館依頼)
2020/10月 大井区長兼いきいき館事務局と担当教員による観光振興の企画検討、仕様確認。
11/1 2019年度、牛のキャラクターデザインを担当した夏ボラOGに顔抜きパネルを依頼。
11月 パネルのデザイン案についての検討 (SNS、オンライン)。
12/1 顔抜きパネルの最終デザイン案の決定。
12月 アルミ複層版への直接プリント方式でデザインを発注。パネル設置場所の検討。パネルの設置架台の設計と制作。
12/29 みねおかいきいき館顔抜きパネルの設置完了。



7 「3/13 小学生向けオンライン草木染ワークショップ」にむけたインターネットシステム、実施手順、当日役割分担などの検討
8～10 小学生向けオンライン草木染ワークショップのプログラムの実施風景（里山体験拠点いきいき館研修所）

成果と課題

●地域貢献

ア)SDGs チャレンジボランティア（合宿・週末）

▼成果

- ・プログラムの実施者側としては、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた準備～当日運営までの運営ノウハウや経験を蓄積し現地と共有することができた（参加学生、関係者への配慮等）。
- ・「小学生向けオンライン草木染ワークショップ」の実施と課題整理について情報ネットワークのボランティア学生の専門性をふまえてサポートできたことで、コロナ禍におけるいきいき館の里山体験の新たなメニュー開発に一部貢献できた。
- ・今回実施した竹林調査と今後作成が予定される竹林マップと竹林台帳の関係者間での共有によって、危険度が高い荒廃した竹林に対する整備活動の優先順位づけ（大井区里山保全協議会による）や、採取の腐心している房州うちわ用の竹材調達（房州うちわ職人による）への貢献が期待される。

▼課題

- ・次年度以降、新しい生活様式の中でのボランティアを通じた関係人口の効果的な関係性の育み方

イ) プロボノ・スチューデント

- ・今回のプロボノを通して南房総市大井地区では、「また、コロナなどが落ち着いたらパネルを見に行きたい」「今回のようなデザインに関してもまたいつでも声をかけてください！」（原文より引用）と言ってもらえるような関係人口を育てるに至った。
- ・これまで来訪者による SNS 上の投稿では、「酪農のさと」といえば白牛やヤギ、「みねおかいきいき館」といえばソフトクリームと自然薯井、のみだったところに、話題提供として新たに親子でキャラクターの家族と記念撮影ができる顔抜きパネルが設置されたことで、今後その画像が来訪者の情報拡散にあたって一つの動機となっていくことを期待したい。

●教育面

ア)SDGs チャレンジボランティア（合宿・週末）

▼成果

- ・ボランティア学生の「IT 技術が災害・観光・産業振興など地域の発展に多面的に貢献できている地域の現場を垣間みれた」「ボランティア後も自分の専門性を磨きもっと地域の力になりたい」といった感想文の一節があり、当人との振り返りの中での話しと併せて、今回は自分のもつ専門性（今回の学生は情報ネットワーク）への学習の動機づけ、問題意識の向上を促す場として機能したことが予想された。
- ・今回は学生参加者が1人で学生チームでの活動ができなかったことより、社会人基礎力向上特に、「チームで育む力」の成長を促すことは難しいものと思われたが、小学生向けのオンライン草木染ワークショップについて、短い時間の中でも企画から準備、現場運営、課題整理まで、一連のプロセスを関係者と共同で進められたことで参加学生にとっては、自分の中で発揮できた社会人基礎力と不足している基礎力を改めて実感するにいたったようである。

▼課題

- ・今後におけるコロナ禍での大学側の科目運営方針とそれに合わせたボランティア企画、効率的なプログラムの実施方法について
- イ) プロボノ・スチューデント
 - ・今回のプロボノは、夏ボラ OG にとって「自分のデザインを実際に使ってもらえるのは本当に嬉しいことでいい経験をさせてもらえて感謝しかない」と言っていたように自分のもつ専門性を活かせる実感と、地域社会から自分が必要とされた喜びを感じる機会となった。
 - ・さらに「また一つ自分の将来の方向性を考えるいい機会に…」と言っていたように、今後の進路選択の動機づけに、今回の活動が活かされていったことが伺えた。

11 12 13



14 15 11～13 顔抜きパネルのデザイン案についての検討（SNS、オンライン）
14 顔抜きパネルのデザイン案の最終案
15 みねおかいきいき館に設置された顔抜きパネル

- ・また昨年までのプロボノの教育的効果でも観察されたのと同様に、今回も担当の学生が責任ある役割を担う（担わざるをえない）状況だったこともあり、その分当人の社会基礎力、特に「自主性」「実行力」が喚起され、成長がみられた。

今後の展開

ア)SDGs チャレンジボランティア（合宿・週末）

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策としての緊急事態宣言の度重なる延長に伴い、プログラムの日程や実施内容の変更を余儀なくされ、残念ながら参加をあきらめざるを得なかった学生が少なからずいた。次年度は引き続き新しい生活様式の中での現地＆オンラインボランティアを通じた地域貢献意識、関係人口の関係性の育み方とその限界について知見の蓄積に取組んでいきたい。

*表彰・マスコミ掲載など

- ・特になし